



販売店目印の旗

本格焼酎「いたばし八丈百万石」(板橋区地域限定販売いも焼酎)

ラベルの題字は坂本健区長が筆をふるったもの。

いも焼酎 原材料：麦麴・芋 アルコール分 25% 内容量：700ml

現在八丈島で芋焼酎と言えば芋と麦のブレンド焼酎が主流ですが、この商品はブレンドではなく麦麴芋掛け焼酎。麦麴の香ばしさが芋の甘みを全面にくっ！と押し出してくれて、絶妙な味わいです。伊豆諸島特有の文化である麦麴の特徴が感じられる芋焼酎となっております。香りがよく、すっきりした飲み口でお湯や水で割っても、本来の味がしっかりと残る焼酎です。

資料：板橋区内にあった加賀藩下屋敷と、加賀藩前田家、八丈島を結ぶ。

板橋宿は、中山道第一番目の宿場として、多くの人々の往来がありました。

加賀国金沢を本拠とする前田家と板橋宿との関わりは、慶長7年(1602)前田利常が江戸出府の際に、徳川秀忠の出迎えを板橋宿で受けたことに始まり、以後前田家は参勤交代の基本的道程に板橋宿を加えました。

現在の板橋区板橋三、四丁目、加賀二、三丁目周辺に加賀藩前田家の下屋敷が構えられていました。前田利家の四女で豊臣秀吉の養女である豪姫は大名宇喜多秀家の正室として嫁ぎました。その後、秀家が関が原合戦に敗れ二人の息子と八丈島に流されました。豪姫は生涯、秀家と二人の息子の身を案じ続け、これに感じ入った豪姫の弟である加賀三代藩主前田利常が幕府と交渉した結果、1年おきに八丈島へ米などの物資の輸送を許されました。以後幕末まで前田家は八丈島の秀家子孫に援助を続けました。明治になり明治政府から罪を許された秀家の子孫は、前田家から旧加賀藩下屋敷の約二万坪の土地と当面の資金を与えられここに入植しました。そして、秀家の供養塔が東光寺(板橋区板橋1丁目)に建立されました。